

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00372

研究課題名(和文) 現代台湾文学・映画におけるLGBT文化の影響 ジェンダー表象に注目して

研究課題名(英文) The Influence of LGBT Culture in Contemporary Taiwanese Literature and Film:  
Focusing on Gender Representation

研究代表者

赤松 美和子(佐藤美和子)(Akamatsu, Miwako)

大妻女子大学・比較文化学部・教授

研究者番号：00510653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2019年にアジアで初めて同性婚を法制化し、ジェンダー・ギャップ指数(GGI)ランキング2023においてもアジアで2位と、四半世紀の間に急激にジェンダー平等に向かった台湾の現代文学と映画におけるジェンダー表象とその変遷を分析した。LGBTQがタブーであったが故に前衛としての存在意義があった1990年代から、LGBTQ文学や映画が主流派となる2010年代に至るまでの、LGBTQ表象がやジェンダー表象の変遷を読み解き、可視化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的社会的意義は、急激にジェンダー平等に向かった台湾社会を例として、文学や映画の表象における変化を可視化し明らかにしたことにある。四半世紀前、台湾文学や映画は、タブーであったが故に前衛としてLGBTQを描いていた。昨今、文学におけるLGBTQ表象は、より個別化、多元化していた。ドキュメンタリー映画も同様だ。一方、劇映画では、同性婚法制化に向かう2010年代一部で高まった同性婚反対運動にตอบสนองするような傾向がみられた。また、ジェンダー平等に向かう社会とは裏腹に、昨今人気のホラー映画では、母性愛偏重が描かれるなどジェンダー平等へのバックラッシュともとれるような傾向もみられた。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes the representation and transition of gender in contemporary Taiwanese literature and film, a country that has rapidly moved towards gender equality over the past quarter-century, having legalized same-sex marriage in 2019 (the first in Asia) and ranked second in Asia in the Gender Gap Index (GGI) 2023. The study examines the transformation of LGBTQ and gender representations from the 1990s, when LGBTQ topics were considered taboo and held significance as avant-garde, to the 2010s, when LGBTQ literature and film became mainstream. It also visualizes the relationship between these shifts in representation and broader societal changes.

研究分野：台湾文学

キーワード：台湾文学 台湾映画 LGBTQ ジェンダー 同性婚

### 1. 研究開始当初の背景

2019年に台湾はアジアで初めて同性婚が法制化された。2023年のジェンダー・ギャップ指数(GGI)ランキングも34位で、台湾はアジアで2位である。台湾はこの四半世紀の間に急激にジェンダー平等に向かった。台湾において四半世紀前からジェンダー平等を牽引してきたのが文学および映画である。1990年代、現代台湾映画では、李安監督や蔡明亮監督がLGBTQを主題とする作品を公開し国際的な映画賞を受賞した。現代台湾文学も、白先勇に続き邱妙津や紀大偉などがLGBTQ文学を発表し文学賞を受賞、多くのLGBTQ文学の誕生を誘発した。今やLGBTQ表象は台湾文学や台湾映画においてマイノリティではなく主流派である。

80年代、90年代のLGBTQ文学、あるいは90年代のLGBTQ映画に関しては、タブーであったが故の前衛としてのジェンダー表象について、あるいはそれ以降の作品についても個別の作品研究は多数存在する。だが、LGBT文学・映画の登場以降、四半世紀を経て、同性婚の法制化に向けて台湾社会におけるLGBTQ認識が急激に変貌を遂げるなか、ジェンダー表象がどのように変遷していったのか、あるいは社会の変化はどのようにジェンダー表象に影響を与えていったのか否かといった、社会の変遷と文学、映画との関係をも対象とする研究はおそらく皆無であったことから、本研究の立案にいたった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、LGBTQがタブーであった社会から四半世紀を経て、同性婚が法制化されるなど急激にジェンダー平等が進んだ台湾を例として、文学や映画におけるジェンダー表象、およびその変遷を分析し可視化することにある。

LGBTQに関する社会の変遷は、現代台湾文学・映画のジェンダー表象にどのように影響を与えているのか。タブーだからこそ前衛として存在意義があったLGBTQ表象はどのように変化していったのか、LGBTQ文化の成熟の先にどのようなジェンダー認識の世界が展開されていくのかを、台湾の現代文学・映画を一つの例として明らかにしていくことも本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

申請書に記した通り、基本的に以下の(1)から(5)までの五つの方法を駆使して研究を遂行した。

#### (1) 海外調査を通じての資料収集、台湾人研究者、作家との交流による新しい知見の確保

研究期間のほとんどすべてがパンデミックに重なり台湾への渡航が不可能だったため、海外調査や国際シンポジウム、海外での研究成果の発信は、期間を一年延長することで補ったものの、予定通りすべてが遂行できたわけではない。だが、オンラインを活用することで、予想以上の成果を挙げることができた。

書籍の資料収集については、台湾のオンライン書店である博客來や誠品書店を利用し、論文については、国家図書館のサイトを活用したが、一部は非公開のため入手することができなかった。映像資料の収集も、DVDが購入可能なものについては博客來などを利用して入手するとともに、日本からも一部アクセス可能な台湾発のLGBTQ特化月額有料動画配信サービス【Gaga00Lala】を利用した。なお、昨今、動画配信サービスで視聴可能な作品についてはDVDが発行されないことが多いため、今後の映像入手方法については検討が必要である。

研究者や作家の交流は、台湾への渡航が解禁されたのちに行った。

#### (2) 定例研究会による研究成果の共有

定例研究会は、研究代表者、分担者、協力者の5名により、約2か月に一度オンラインで行い、研究成果を共有したほか、関連書籍の翻訳も行った。

#### (3) 国際シンポジウム開催による共同研究成果の発信

映画については、2021年9月に、オンラインシンポジウム「LGBTQ映画と社会 - 日本の研究と台湾への接近の可能性」を主催し、クィア・スタディーズ、アメリカ映画を専門とする菅野優香、クィア・スタディーズ、日本映画を専門とする久保豊准を講演者に迎え行った。日本はもちろん、海外から研究者のみならず多くの方が参加し意見交換を行った。

文学については、2023年1月に研究協力者の八木はるなが司会を務め、作家の李琴峰、LGBTQ文学研究者の劉靈均を講演者に迎え、シンポジウム「LGBTQ文学表象：日本と台湾の最前線」を対面で、大妻女子大学において開催した。

(4) 国内外学会での研究成果の発信および(5) 翻訳、論文を通じての研究成果の発信についての詳細は、下記研究成果に記す。

#### 4. 研究成果

主たる研究成果を紹介する。

##### (1) 論文による研究成果の発信

台湾文学：

研究代表者の赤松美和子は、論文「台湾同志文学が日本統治期を語ることの可能性と不可能性」(『文学の力、語りの挑戦 中国近現代文学論集』東方書店、2021年)を発表し、2010年代以降のLGBTQ文学における個別性、多元性といった新たな特徴についても指摘した。

研究協力者の白水紀子も「台湾LGBTQ文学の現在 「新しいホモノーマティビティ」への対抗」(小浜正子、板橋暁子編『東アジアの家族とセクシュアリティ 規範と逸脱』京都大学学術出版会、2022年)において、従来の台湾LGBTQ文学のホモノーマティビティに異議を唱えつつ新たな世界を展開する郭強生の小説『断代』を例として、個別化、多元化していく台湾LGBTQ文学について、示唆に富んだ論を展開した。

そのほか、関連する研究として、白水は、「中国の女性文学 「女の声」を聞く」(『アジア・ジェンダー文化学研究』第4号)、張文菁は「1950年代後半の台湾における通俗出版 通俗誌・香港・貸本屋」(『野草』第105号)などを公刊した。

台湾映画：

赤松は、論文「台湾LGBTQ映画における子どもをめぐるポリティクス」(『日本台湾学会報』第24号)において、近四半世紀に公開された台湾LGBTQ劇映画を、社会との関係、とりわけ中華の伝統的価値観である伝宗接代(男系による家の継承)の影響を可視化すべく、子どもの表象から整理することによって、同性婚法制化に向かう2010年代、同性カップルを描く作品ほぼすべてに次世代としての子どもの登場し、同性婚が伝宗接代に抵触しないことをアピールするなどこれまでにない傾向が見受けられたことを明らかにした。さらに論文「台湾ホラー映画における母性のアブジェクション ジェンダー平等へのバックラッシュ」(『REPRE』第48号)において、ジェンダー平等が進む台湾社会において、家族や宗教といったドメスティックな世界で展開される母性愛偏重傾向を指摘するとともにジェンダー平等へのバックラッシュの一例を前景化した。

垂水千恵は、『ユリイカ』第53巻第9号の「台湾映画特集号」に「台湾映画礼賛(特集台湾映画)」を寄稿した。

##### (2) 著書による研究成果の発信

研究書：

垂水千恵は、日本における台湾LGBTQ文学研究の第一人者として、「第9章 クィア作家、紀大偉の大島渚受容 二つの「儀式」論」「第10章 邱妙津『ある鱈の手記』の間テキスト性 村上春樹『ノルウェイの森』を中心に」「終章 ポリフォニックに再生する台湾文学」を所収する単著『台湾文学というポリフォニー 往還する日台の想像力』(岩波書店、2023年)を刊行した。

関連研究書：

垂水千恵は、単著『奮鬥的心霊 呂赫若與他的時代』(國立臺灣大學出版中心、2020年)、張文菁は、単著『通俗小説からみる文学史 一九五〇年代台湾の反共と恋愛』(法政大学出版会、2022年)を公刊した。

翻訳書：

白水紀子は、LGBTQ小説である陳雪「蝶のしるし」を含む台湾の女性作家たちの小説8篇を所収した短編小説集『台湾文学ブックカフェ 1 女性作家集 蝶のしるし』(作品社、2021年)を完訳したほか、甘耀明『真の人間になる(上)(エクス・リプリス)』『真の人間になる(下)(エクス・リプリス)』(いずれも白水社、2023年)を刊行した。

##### (3) 学会、研究会、シンポジウム報告、講演などによる研究成果の発信

学会分科会企画、報告、研究会報告

赤松は、日本台湾学会第23回学術大会(オンライン、2021年5月30日)で、分科会「予定調和のためのジェンダー・ポリティクス 1950年代のラジオ放送および近年のLGBTQ映画日本」を企画し、「台湾LGBTQ映画における子どもをめぐるポリティクス」を報告、張文菁も同分科会において「1950年代台湾語ラジオ放送にみる語りと歌謡曲の融合 - 洪徳成『美麗的情仇』と『愛的聖典』」を報告した。

垂水は、日本台湾学会第25回学術大会(名古屋市立大学、2023年5月28日)において分科会「写真学・建築学の視点から読む『ニエズ』とその背景」を企画し、企画責任者および座長を務めた。

張は、2023年6月に中国文芸研究会で「身体と政治をつなぐ同志文学 郭強生『断代』にみる台湾の1980年代」について発表した。

八木は、2023年10月に東方学会で「白先勇のLGBT小説『ニエズ』の東アジア文化界における受容と変容」について発表した。

シンポジウム

垂水は、2022年10月に台北教育大学で開催された国際シンポジウム「世界中的台湾文學」

国際學術研討會」で講演「台湾文學成為「世界文學」」を行い、2022年9月に台湾文學學會企画、本科研共催の国際シンポジウム「前進世界：台湾文學與文化海外系列講座」(日本担当)において、作家の賴香吟を招聘しての講演会「自由とは何か：戒嚴令解除後の台湾文学」を主催し、講演も行った。

張は、2022年7月に韓国翰林大学日本学研究所開催のシンポジウム『文学：ポスト帝国の文化権力を考える』において、報告「台湾におけるポスト帝国と再植民の文化政策 雑誌『新新』・禁書・通俗小説」を報告した。

#### 講演

赤松は、ふえみ・ゼミの「映画が映す東アジア～ジェンダー、セクシュアリティ、社会」において、2024年3月「台湾 LGBTQ 映画からホラー映画まで ジェンダー平等？バックラッシュ？」と題して講演した。

垂水は、2021年11月に福岡ユネスコ文化講演会で招待講演「「台湾」を読む 台湾新文学から LGBTQ 文学まで」を行い、2023年9月に、台湾大學台湾文学研究所で「關於邱妙津作品裡的互文性(intertextuality)以鱈魚手記為中心」について講演した。

白水紀子は、2022年4月に政治大学百年楼一樓で行われた日台文学対談「『藍屋子』の時空之旅」蔡素芬×白水紀子にオンラインで登壇するとともに、2022年7月に国立台湾文学館で開催された「譯想天開 臺灣文學外譯成果發表會」で講演「純文學譯本在日本的普及和深化」を行った。

張は、2023年3月に台湾の国立清華大学台湾研究所で講演「從通俗小説看台湾文学史」、2023年10月に国立台湾大学台湾文学研究所で講演「從通俗小説;看台灣文學史」を行った。

#### (4) 研究成果の一般社会への還元

赤松は、台湾の概説書『台湾を知るための72章』(明石書店、2022年)を若松大祐と共編するとともに、本書において、「文学 多言語多文化を包容する台湾文学」「映画 ニューシネマからエンタメへ」を担当した。また、インターネットメディア「nippon.com」に、2022年に「台湾 LGBTQ 文学：ジェンダー平等を語る言葉と物語」と題して日本語でよめる台湾 LGBTQ 文学を紹介したほか、2022年に YouTubeSNET 台湾チャンネルに動画「台湾の文学」を公開した。

東京国際映画祭 2023 を記念して発刊された石坂健治監修『台湾映画 ポストニューシネマ時代の監督ガイド』(2023年10月)に、赤松は「台湾ホラー映画と母と娘」、垂水は「台湾映画いまむかし」(対談)を寄稿した。

八木はるなは、国立台湾文学館刊行の『文学青年育成ガイド 台湾文学史基本教材』(2021年)を共訳したほか、『毎日新聞』に、「性的多様性描く金字塔 台湾の小説『ニエズ』の40年」(2024年2月11日)を寄稿した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 48
2. 論文標題 台湾ホラー映画における母性のアブジェクション ジェンダー平等へのバックラッシュ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 REPRE	6. 最初と最後の頁 online
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 1
2. 論文標題 台湾ホラー映画と母と娘	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 台湾映画—ポストニューシネマ時代の監督ガイド	6. 最初と最後の頁 70-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 張文菁	4. 巻 225
2. 論文標題 口述歴史 「戦後通俗言情小説与台北出版業」口述歴史座談会	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 台北文献	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 垂水千恵	4. 巻 1
2. 論文標題 鼎談「台湾映画いまむかし」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 台湾映画—ポストニューシネマ時代の監督ガイド	6. 最初と最後の頁 12-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 24
2. 論文標題 台湾LGBTQ映画における子どもをめぐるポリティクス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本台湾学会報	6. 最初と最後の頁 34-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 台湾LGBTQ文学：ジェンダー平等を語る言葉と物語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 nippon.com	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 臺灣LGBTQ文學－性別平等的語言與故事	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 nippon.com	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 以臺北為舞臺的臺灣文學	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ニッポンドットコム	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 台北を舞台にした珠玉の台湾文学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 nippon.com	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 冗舌に語り始めた台湾文学100年の幽霊たちー複雑な歴史と文化を体現する存在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 nippon.com	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 -
2. 論文標題 臺灣文學100年の幽霊 - 臺灣歴史的な光與影	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 nippon.com	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 20210921
2. 論文標題 時代を証言する台湾シネマ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ニューズウィーク日本版	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 垂水千恵	4. 巻 53
2. 論文標題 台湾映画礼賛（特集台湾映画）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木はるな	4. 巻 481
2. 論文標題 文学の「冰山」を愛惜し、慎重に探査する一冊[松崎寛子著 鄭清文とその時代：郷土を愛したある台湾作家の生涯と台湾アイデンティティの変容]	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東方書店	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 30
2. 論文標題 地域研究の学術的知見を活用した高校台湾修学旅行支援の研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間生活文化研究	6. 最初と最後の頁 974-977
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白水紀子	4. 巻 4
2. 論文標題 中国の女性文学：「女の声」を聞く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・ジェンダー文化学研究	6. 最初と最後の頁 23-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -



1. 著者名 張文菁	4. 巻 105
2. 論文標題 1950年代後半の台湾における通俗出版 通俗誌・香港・貸本屋	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 野草	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤松美和子	4. 巻 420
2. 論文標題 既是夏季限定的「跳板」亦為台灣文學史的文藝營	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『文訊』	6. 最初と最後の頁 114-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 赤松美和子
2. 発表標題 台湾LGBTQ映画からホラー映画まで ジェンダー平等？バックラッシュ？
3. 学会等名 映画が映す東アジア～ジェンダー、セクシュアリティ (招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 八木はるな
2. 発表標題 白先勇のLGBT小説『ニエズ』の東アジア文化界における受容と変容
3. 学会等名 東方学会令和5年度秋季学術大会シンポジウム「百年の台湾文学」 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 身体と政治をつなぐ同志文学 郭強生『断代』にみる台湾の1980年代
3. 学会等名 中国文芸研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 台湾におけるポスト帝国と再植民の文化政策—雑誌『新新』・禁書・通俗小説
3. 学会等名 韓国翰林大学日本学研究所開催シンポジウム『文学：ポスト帝国の文化権力を考える』（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 台湾文学にとっての「国語」
3. 学会等名 関西大学東西研究所 / 経済・政治研究所 / 法学研究所3研究所合同シンポジウム『台湾の現在』（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 從通俗小説看台湾文学史
3. 学会等名 台湾通俗小説跨媒介交渉研究（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 垂水千恵
2. 発表標題 台灣文學成為「世界文學」
3. 学会等名 台灣文學學會年會：「世界中的台灣文學」國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 垂水千恵
2. 発表標題 賴香吟「自由とは何か：戒嚴令解除後の台湾文学」に回答して
3. 学会等名 台湾文學學會【前進世界：台湾文学海外系列講座】（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白水紀子
2. 発表標題 純文學譯本在日本の普及和深化
3. 学会等名 譯想天開：臺灣文學外譯成果發表會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤松美和子
2. 発表標題 台湾LGBTQ映画における子どもをめぐるポリティクス
3. 学会等名 日本台湾学会第23回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 1950年代台湾語ラジオ放送にみる語りと歌謡曲の融合ー洪徳成『美麗的情仇』と『愛的聖典』
3. 学会等名 日本台湾学会第23回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 垂水千恵
2. 発表標題 「台湾」を読む 台湾新文学からLGBTQ文学まで
3. 学会等名 福岡ユネスコ文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 従通俗小説看台湾文学史
3. 学会等名 台湾国立清華大学台湾文学研究所
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 赤松美和子
2. 発表標題 LGBT文化の成熟と現代台湾映画におけるジェンダー表象
3. 学会等名 現代台湾文学・映画におけるLGBT文化の影響 ジェンダー表象に注目して
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 説と台湾歌曲の融合 洪徳成作品のジェンダーディスコース
3. 学会等名 現代台湾文学・映画におけるLGBT文化の影響 ジェンダー表象に注目して
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 赤松美和子
2. 発表標題 疫情與東亞文化流動：在日本
3. 学会等名 「第四屆文化流動與知識傳播：臺灣文學的斷裂與蔓生」國際學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 張文菁
2. 発表標題 新旧華僑が形成する横浜中華街-新移民文学誕生の可能性を論じる
3. 学会等名 台湾現代文学における多元性の再構築 新移民・LGBT文学を中心に（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白水紀子
2. 発表標題 台湾LGBT文学の現在
3. 学会等名 台湾現代文学における多元性の再構築 新移民・LGBT文学を中心に（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 甘耀明（著） 白水紀子（訳）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 256
3. 書名 真の人間になる 下	

1. 著者名 甘耀明（著） 白水紀子（訳）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 265
3. 書名 真の人間になる 上	

1. 著者名 垂水 千恵	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 290
3. 書名 台湾文学というポリフォニー 往還する日台の想像力	

1. 著者名 赤松美和子、若松大祐編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 424
3. 書名 台湾を知るための72章【第2版】	

1. 著者名 江鵠ほか著、白水紀子訳、白水紀子、呉佩珍、山口守編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 288
3. 書名 台湾文学ブックカフェ1 女性作家集 蝶のしるし	

1. 著者名 張文菁	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 292
3. 書名 通俗小説からみる文学史	

1. 著者名 押野 武志、吉田 司雄、陳 國偉ほか編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 交差する日台戦後サブカルチャー史（分担執筆：張文菁「1950年代初期の禁書政策と中国語通俗出版」）	

1. 著者名 国立台湾文学館企画編集，謝恵貞，八木はるな訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立台湾文学館	5. 総ページ数 255
3. 書名 文学青年育成ガイド：台湾文学史基本教材	

1. 著者名 小浜 正子、板橋 暁子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 22
3. 書名 東アジアの家族とセクシュアリティ（分担執筆：白水紀子「台湾LGBT文学の現在 「新しいホモノーマティビティ」への対抗」）	

1. 著者名 垂水千恵	4. 発行年 2020年
2. 出版社 國立臺灣大學出版中心	5. 総ページ数 465
3. 書名 奮鬥の心霊：呂赫若與他的時代	

1. 著者名 赤松美和子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 21
3. 書名 文学の力、語りの挑戦 中国近現代文学論集（分担執筆：赤松美和子「台湾同志文学が日本統治期を語る ことの可能性と不可能性」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	四方田 千恵 (垂水千恵)  (YOMOTA TARUMI Chie)  (70251775)	横浜国立大学・国際戦略推進機構・教授   (12701)	
研究分担者	八木 はるな  (YAGI Haruna)  (40845806)	中央大学・理工学部・准教授   (22301)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	張 文菁  (CHO Bunsei)  (00434241)	愛知県立大学・外国語学部・准教授    (23901)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	白水 紀子  (SHIROUZU Noriko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 「前進世界：台湾文學與文化海外系列講座」	開催年 2022年～2022年
--------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関